

第10回街歩き・鴻 巣 を 歩 く

2019年4月16日（火）に伊奈学園専攻課程第3期卒を主とする街歩きの皆さんと鴻巣を散策した。

鴻巣市は埼玉県のほぼ中央に位置し、JR 高崎線や荒川に沿う人口約12万人の街である。

「こうのす」の名の由来は種々あるが、かつてこの地に无邪志国（むさしのくに）の国府が置かれたことから「国府の州」が「こうのす」と転じ、後に「鴻（こうのとりの）伝説」から「鴻巣」の字を当てるようになったと伝えられている。

また、新編武蔵風土記稿（1804年～1829年に編まれた武蔵国の地誌）には、次の記述がある。

「字本宮の地に大樹が一本茂っており、土地の人々はこれを樹の神として崇め、供え物をして祭っていた。もしお祭りを疎かにすると祟りがあり、人々に災いもたらすというのである。あるとき一羽の鵪が巣をかけて卵を産み付けた。この卵をねらってどこからともなく現れた大蛇（樹神の化身）が襲い掛ろうとしたが、鵪は嘴をもってつつき殺してしまったという。それ以来、樹神は人々に危害を与えることがなくなったという。このような出来事があってから、ここに祀られた社を鴻ノ宮というようになり、地名も鴻巣と呼ばれるようになった」

このため鴻巣市のキャラクターは「ひなちゃん」だ、



鴻巣市のキャラクター「ひなちゃん」の例

鴻巣市の以下の花の出荷量は日本一だそうだ。



サルビア

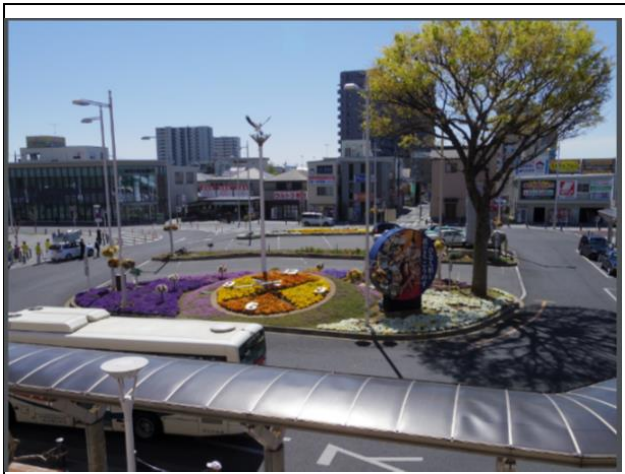


プリラム



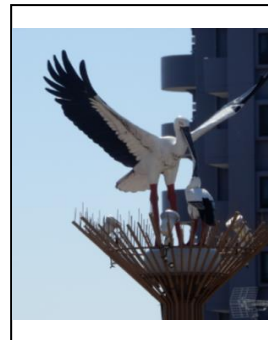
マリーゴールド

集合地の鴻巣駅から駅前に飾ってある4尺の花火玉の横を通り、徒歩15分の鶴神社に向かう。



鶴神社

この神社は上記の鶴伝説にでた神社であり、氷川社、雷電社、三狐稲荷神社などを合祀している。庭のなんじゃもんじゃの開花には2週間程早かったようだ。お願い事を書き入れ、たまごの中に収めて奉納するお願いたまごが珍しい。



法要寺

真言宗智山派寺院の法要寺は、江戸期には加賀藩前田家の宿所となっており、加賀藩の梅鉢紋が寺紋になっている。境内不動様の前の一對の石の狛犬は、かつて中仙道に鎮座していた市神様の社前の狛犬である。



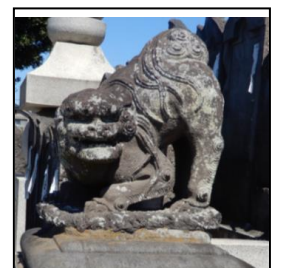
寺号標と山門



本堂



狛犬



狛犬

埴輪



鴻巣市に所在する古墳時代後期の東日本最大級の埴輪生産遺跡である生出塚埴輪窯跡群（おいねづかはにわかまあとぐん）は、鴻巣警察署東側の元荒川沖積地を望む台地上に分布している。現在この場所は公園になっており遺跡の跡は何も残っていない。作られた埴輪のうち約 70 点は市の文化センターであるクレア鴻巣という建物に展示されており、国の重要文化財に指定されている埴輪もある。

鴻巣御殿跡



鴻巣御殿は文禄二年（1593）年、徳川家康によって鷹狩や領内視察などの宿泊や休憩所として建てられ、その敷地は約 1.4 ヘクタールの広さだ。その後、秀忠、家光の三代に渡って將軍家の鷹狩の際の休泊所として利用

された。明暦の江戸大火後は、その一部を解体され江戸城に運ばれ、天和二（1682）年頃には残りの建物も腐朽して倒壊し、元禄四（1691）年には御殿地に東照宮を祀り除地とした。その東照宮も明治三十年代に鴻神社に合祀され、旧御殿地はその後民有地となり、東照宮はわずかに鳥居を残すのみだ。現在は、市役所に御殿の模型が展示されている。

川幅うどん



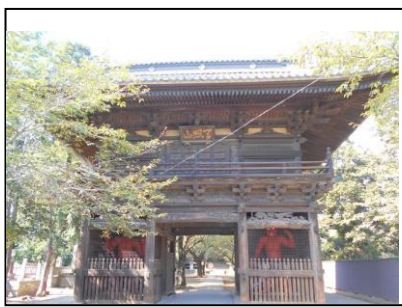
川幅うどんは平成 21 年に「久良一」というお店が幅 10 c m のうどんを発売したことによる。幅 2 c m 程度のお店もあるそう。今回食べた「小山屋食堂」は幅 5 c m 程度だ。厚さは薄く柔らかい麺だ。このうどんを熱い肉などが入ったつゆにつけ食べる。幅があるので讃岐うどんの硬さだと食べるのに苦労する。

勝願寺

勝願寺は鎌倉時代創建。16世紀後期、清厳上人によって現在地へ中興され、弟子の不残上人は、徳川家康の帰依を受け、30石の朱印地が与えられた。境内には関東郡代伊奈氏や真田氏に嫁いだ小松姫などの墓がある。殆どの建物は明治時代に焼失した



伊奈忠次、忠治夫妻の墓



仁王門



山門

観光協会 ひなの里

鴻巣雛のふるさと人形を伝える施設として、ひな人形・赤物（製作技術は国指定無形民俗文化財）や歴史を今に伝える古地図などを展示している。



ひな人形



赤もの



本陣跡碑

鴻巣本陣

鴻巣には主に大名や公家などの支配者階級が利用する本陣が1軒、脇本陣が1軒と、旅籠が58軒あったが、ほとんど焼失し中山道沿いに碑だけが残る。中山道沿いには明治時代の建物も殆どの凝っていない。

予定を1時間程オーバーしガイドさんも疲れたと思いますが、楽しい街歩きでした。
ガイドさん、幹事さん有難うございました。